



観光交流拠点の一つに



木をふんだんにあしらった、
心和む温もりある空間

KUMANO SAKE GATE

新宮市下本町 に 10月1日オープン

熊野・新宮の酒造りの歴史と文化を感じながら、尾崎酒造の酒を「見て・知って・味わって・選ぶ」ことができる新しい交流の場として、新宮市下本町の県道

沿いに、観光交流センター「KUMANO SAKE GATE」が10月1日(木)、オープンする。開場時間(営業時間)は午前10時〜午後6時。不定休。



熊野・新宮の酒造りの歴史と文化を感じながら、尾崎酒造の酒を「見て・知って・味わって・選ぶ」ことができる新しい交流の場として、新宮市下本町の県道

沿いに、観光交流センター「KUMANO SAKE GATE」が10月1日(木)、オープンする。開場時間(営業時間)は午前10時〜午後6時。不定休。

約30種類の地酒

「見て・知って・味わって・選ぶ」

当地を訪れる国内外の観光客と地元住民にも、日本酒の販売や試飲などを通して文化を伝えるとともに、熊野の魅力を発信する拠点の一つになればと、地元の酒蔵・尾崎酒造株式会社が設置・運営する。

センターでは、同社で製造の約30種類の地酒が味わえ、熊野杉を醸造させて造った世界初のうた「木の酒」の香りを体験したり、酒粕を使ったスイーツを味わったりできる。施設2階の大会議室では日本酒のノウハウを学ぶイベントやワークショップなども計画していくという。

同社の佐原謙次代表取締役は「弊社の日本酒は三山+KUMANO SAKE GATEでこの地域発展のために力を注ぎたい」と見据えた。

尾崎酒造株式会社

明治13年に創業した、世界遺産・熊野三山の中心に位置する本州最南端の蔵元で、和歌山県有田川町から三重県伊勢松阪周辺までの間で、ただ一軒だけの地酒メーカー。酒蔵のすぐ北側が川の参詣道・世界遺産熊野川という好環境に恵まれ、その良質の伏流水と川面を渡る厳冬の北風が、昔ながらの伝統の酒蔵を守り続けている。

森林総合研究所(茨城県つくば市)と連携して木材

を原料とした「木の酒」の開発を行っており、地元熊野杉を使った熊野オリジナル「木の酒」の試作品製造にも取り組んでいる。今年10月には、紀州材を利用した木造2階建ての観光交流センター「KUMANO SAKE GATE」をオープンさせ、「木の酒」のPRも行う。今後も「木の酒」醸造施設や倉庫の新築も予定しており、引き続き紀州材の積極的な利用を計画している。

紀州材のPRにも一役 和歌山県と協定結ぶ

和歌山県と尾崎酒造の関係者(協定締結)



KUMANO SAKE GATEの建設にあたり、同社は構造材、内外装材、什器などにも紀州材(スギ・ヒノキ)を積極的に活用した。紀州材については、和歌山県が建築物の木造化・木質化を進めるうえで活用を広く呼び掛けており、今回、同社と紀州材の積極的な活用における協力・連携により、2050年カーボンニュートラルの実現や山村地域の活性化等に貢献するとしている。県はこれまでと同協定を18件締結しており、今回が19件目。

県東牟婁振興局の米田拓司局長は「紀州材を活用して立派なものを建ててもらったことはうれしい。『木の酒』も作っていただければ新たな飲食の名産品となり、併せて観光資源として周遊拠点になってほしい。県もPRに努めたい」と話した。

プレゼント付 クロスワード 当選者発表

クロスワードクイズの答え

ちゅうしゅの
めいげつ 中秋の名月

いつも紀南新聞をご購読いただき、ありがとうございます。「無料映画鑑賞チケットが当たるクロスワードクイズ」の抽選をこのほど行い、当選者が決まりました。多数の応募はがきのうち、必要事項記入もれ等を除いたはがきから厳正に抽選致しました。当選された皆さまには、お名前を証明できるもの(運転免許証や健康保険証など)を持参のうえ、紀南新聞社本社に賞品を取りに来ていただくことを基本としております。

賞品引き換え期間は

9月30日(水)~10月20日(火)

(※日・祝日を除く)とさせていただきます。紀南新聞社 営業部

次回10月初旬、「プレゼント付 クロスワードクイズ」掲載。たくさんのご応募お待ちしております。

ジストシネマ南紀様ご提供 無料映画鑑賞ペアチケット 当選者5名様

新宮市春日 浜口 美智子様
那智勝浦町宇久井 下浦 暁子様
新宮市熊野川町 坂本 勉様
紀宝町神内 佐藤 真奈美様
串本町田原 西脇 美沙子様

